

## 研究の実際

① (2) 観点別項目からの授業の設計

児童の実態を観点別に分析することにより、個のとらえ方の視点を明確にして授業を設計することとした。

### ② 単元構想の位置付け

主題にせまるための仮説とその対策を明確にし、単元を通してどのような力をつけさせていくのか、指導案の中に単元構想図を位置付けることとした。

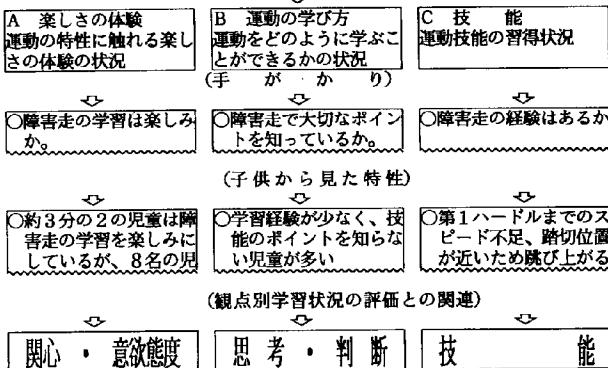
### (3) 考察

一人一人がどんな願いをもち、

## 資料1 観点別授業設計 体育科サークル

### <個をとらえるための調査>

1. 障害走で大切なポイントは何ですか？
2. 障害走の学習は楽しみですか？  
①とても楽しみ (8) ②楽しみ (17) ③あまりやりたくない (8)
3. なぜ、そう思いましたか?  
①記録が伸びるから (17) ②得意になりそうだから (11)
6. 自分でめあてをもって学習できますか?  
①できる (0) ②学習資料があればできる (21) ③先生が助けてくれる (2)



## 資料2 単元構想図 算数科サークル

### 3. テーマにせまるために

「児童の実態」  
・学力テストにおいて「量と測定」の領域に落ち込みがみられる。

「教材とのかかわり」  
・4学年で長方形、正方形の面積の求め方を学習している。

「の图形に変形している児童が9%、その他はますを教える方法で面積を求めている。」

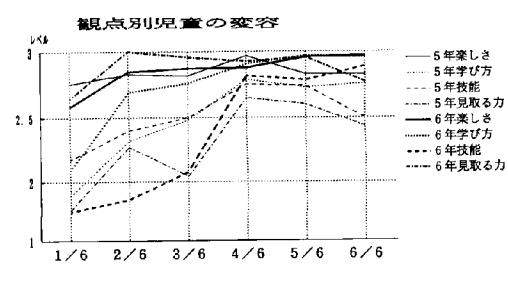
「方について学習する。」  
・この学習は今後6学年の立体图形の表面積の学習の基礎となる。

「テーマにせまるために」  
本単元は既習の图形を基にして面積を求めること、それらの考えを土台にして公式を作り出すことが重要であると考える。それらの活動をひとりひと

### (1) 3

教師は単元を通してどのように手立てを用いて児童の願いを実現させていくのか、どのような力を身につけさせていきたいかという構想がより明確になつた。  
検証方法・授業分析の改善  
現状の問題点  
検証方法・授業分析について  
は、単元を通して児童の変容を客観的にとらえた具体的な資料によって検証される必要があるが、検証方法も各教科サークルごと様々であり、客観性のない

## 資料3 観点別授業分析 体育科サークル



(2) 観察法に頼ることが多かつた。  
児童がどのように変容したか  
をとらえるために事前・事後テ  
スト、観察法に加え、観点別自  
己評価カードを実施した。

① 楽しさの体験
5、6年生とも初めての体育における交流学習であった。単元の初めはお互いやや緊張気味に学習を進めていたが、学習が進むにつれてスムーズ
② 運動の学び方
運動の学び方については単元が進むにつれて向上していった項目であるが、単元初めは5、6年生ともかなり低い数値を示した。
<b>対策1 運動のできばえを見とる力を育てる工夫</b>
○TTを通じ、より多くの子を見取り、適切な支援活動を行うことができた。
○学習資料をもとに技のポイントをアドバイスできる児童がふえた。
●TTの機能を生かした指導方法、ねらいに応
<b>対策2 教え合い学習を深めるための工夫</b>

## 資料4 自己評価カード 国語科サークル

きょうの学習をふりかえって●をつけ、線で結びましょう。

楽しかった

